

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名		佐賀市立勸興小学校									
1 前年度 評価結果の概要	・校内研を通して教職員が学び続けたことで、つけない力を明確にした授業づくりを進めることができた。県学習状況調査では、「思考力・判断力・表現力」の向上が見てとれた。その一方で、主体性は今後も課題である。 ・「勸興皆一家」を掲げる地域に支えられた環境の中で、自分らしさを誇り、自立へ向かう子どもの支援を充実させることができた。 ・業務改善、教職員の働き方改革については、改善はみられるものの、個人差があり、課題が残る。職員自らの改善策を募り、ボトムアップで業務改善を進めるなど、一層の工夫が必要である。										
2 学校教育目標	ふるさと勸興を誇りに 個性と創造性に富む子どもの育成 ～勸興魂「勉強はベストをつくし 運動はくたくたになるまで」を校是として～										
3 本年度の重点目標	【市民性と自己有用館を育む教育の推進】：○ふるさと勸興を誇りに、市民性を育む教育の充実、○創立150年を機に、自ら進んで役割を果たそうとする児童の育成 【学力向上の推進】：○学習指導要領の理念を具現化し、学力向上を目指した学習指導、○個に応じた価値ある家庭学習の継続 【豊かな心の育成】：○開発的生徒指導や個々に寄り添った教育相談の推進、○多様性を当たり前に受容できる児童や学校文化の育成 【特別支援教育の充実】：○個別の教育支援計画を具現化した適正な教育課程の編成及び実施、○全児童を対象とした合理的配慮の提供										
4 重点取組内容・成果指標		中間評価	5 最終評価	主な担当者							
(1)共通評価項目											
重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価				
評価項目	取組内容		成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○自ら問いをもち、学び続ける子どもを育成するための授業の実践	○単元や題材を通して身に付ける力を明確にした授業づくりと、「問い」と「振り返り」を大切に授業実践(授業公開年1回以上)	○各教科で身に付ける力を明確にした授業の公開を年1回以上行う。 ○公開授業後の研究会実施(100%) ○全校授業研参加年4回								まなびあい部
●学力の向上	○一人一台のタブレットを有効活用した授業実践	○「各学年で身につける操作スキル」当該学年の技能習得の指導 100% ○プログラミング教育全体計画の当該学年の指導内容の履修 100% ○発達段階に応じて、資料共有や振り返り場面等での活用	○総合的な学習の時間等で技能習得の時間を設ける。 ○IOT利活用推進のための教職員向けミニ研修の実施(年5回) ○4年生以上で家庭でのタブレット使用を推進する。								まなびあい部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○多様な人物や価値観との出会いから、自分事としての振り返りができる児童85%以上	○ゲストティーチャー等招き、多様な人物や価値観との出会いを教育課程に位置づけ、価値ある学びを作る。 ○特別支援学級の担任による児童への多様性を認め合い尊重し合うことをねらった講話の実施。								ひびきあい部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○児童、保護者へのアンケートを毎月確実に実施し、管理職・学年で対応する教師90%以上	○確実に丁寧なアンケートの対応→アンケート実施月内に、聞き取り、解決に導く								ひびきあい部
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	○校内研修を通して、QUアンケートの集計結果を基に学級のアセスメントを行う。 ○学校評価アンケートに質問項目を入れて集計をする。 ○教科横断的な視点でキャリア教育を推進する。 ○学期ごとのめあてや振り返りで児童のできるようになったことやこれから頑張りたいことについての項目を設け、自己肯定感を高める。								ひびきあい部 まなびあい部
	◎ふるさと勸興を誇りに、自分の夢や目標について考える教育の推進	◎「勸興の良さ」を1つ以上回答できる1～3年生が80%以上 ◎「勸興を誇りに思う」と回答する4～6年生が80%以上	◎児童が地域に学ぶ場、児童の地域における活躍の場、「出身・役割・承認」の場を各学級に1回以上、教育課程に位置づける。 ◎「勸興読本」Jさがの人物探検99」の活用								
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で体を動かす時間が1週間で420分以上の児童生徒90%以上	○昼休みに体育館を開放し、運動する機会を増やす。 ○徒歩通学の価値づけおよび奨励 ・全校朝会で啓発 ・学校だより、保健だより、学級だよりで発信(それぞれ1回以上)							ひびきあい部	
	○ゲーム・インターネット・SNSの節度ある適切な使用	○端末を利用する約束を守っていると回答する保護者の割合が85%以上	○情報モラル等の問題を取り上げた学級指導を教育課程に位置付け実施する。 ○インターネット利用に関するアンケートの毎月実施。 ○学級だより等で、保護者に諸問題に関する情報を提供し、啓発する。							まなびあい部	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	○18時以降の電話の禁止 ○健康観察アプリ「LEBER」での連絡対応(休日や長期休業の対応範囲の共通理解) ○提出期限ボードの活用 ○業務の効率化アイディアの共有 ○職員会議資料のデータ化 ○学期ごとに反省を行い、来年度に向けて行事の精選を行う							管理職	
	○探さない・切らさない・ためない整理整頓	○各箇所の整理整頓評価をA以上にする。(S・A・B・C・D)の5段階評価	○安全点検の際に安全の視点とは別に整理整頓の視点で点検を行い、室管理者の声掛けで即時に改善を図る。							ひびきあい部	
●特別支援教育の充実	○個別の教育支援計画、個別の指導計画を具現化した教育課程の実施 ○個に応じた自立活動の充実	○個別の教育支援計画、個別の指導計画を有効に活用したと回答する職員80% ○人的環境のUDIについて意識して取り組むことができたと回答する職員80%	○校内の課題に応じた教職員研修の開催 ○児童の教育的ニーズに応じた学びの場の検討(支援会議の実施) ○個別の指導計画の効果的活用(毎週木曜日) ○校内教育支援委員会の計画的開催に向けた特別支援教育Co.の役割の明確化							特別支援教育 コーディネーター	
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育											
5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・										